

114
A 3505



新聞抄譯

十八百七十九年十月六日癸亥ノ「ヂヤッパン」ガゼット

八尾正文譯

大正十一年十月
大隈侯爵邸寄贈

夫レ銀圓ハ之ヲ洋銀ニ比較スレハ商賣上ニ取リテハ幾分カ下等ニ位スルノ貨幣ナラサルヲ得ス如何トナレハ甲貨銀圓ヲ指スハ乙貨(洋銀ヲ指ス)大ケノ流通價格但シ廣ク海外ニ於テ有セザレバナリ素ヨリ甲乙互ニ含有スル所ノ貴金ノ純分ニ至リテハ毫モ等差ナシトモ外國人カ今爰ニ得失利害ヲ論ゼサルヲ得ザル所ハ准流通價格ノ一点ニ在ルナリ蓋シ日本政府ニ於テ其銀圓ニ含有スル銀分ノ量洋銀ニ含有スル銀分ノ量ト等差ナキノ間ハ何時迄モ其銀圓ヲ洋銀ト並價ヲ以テ内地ニ流通セシメント考定スルハ乃チ當然ノ事ニシテ聊カモ間然スル所ナシ而シテ其條理ノ如キハ自カラ明瞭ナレバ此ニ贅言スルハ全ク益ナシトス然リトモ

氏銀行ノ學錯ニ至リテ、日本政府ノ為ス所ト自ツカラ一途ニ
出ツベカラザルモノアリ如何トナレハ銀行日常ノ業務中最モ
重モナル要目ハ畢竟外國為換ノ件ニアルヲ以テ各貨幣ノ中ニ
就キ彼是流通ノ價格ヲ比較スルノ事ハ其考案第一ノ地位ヲ占
メサルヲ得サレハナリ而シテ銀口ノ價格ハ高賣上ニ於テ前ニモ
迷ベシ如ク幾分カ洋銀ノ價格ニ劣レルヲ以テ銀行ハ必ス輸出
目的ノ為メニ乙貨(即チ洋銀)ヲ吸吞シ盡シ銀口ノミヲ留メテ通
貨預主等ノ仕拂ニ充ツベキナリ然ルニ洋銀盡ク輸出セラレ
銀口獨リ通價ヲ以テ授受セラル、ニ至ルノ際ニ於テ若シ萬一
通貨ノ不足ヲ市場ニ告クルコアラハ余儀ナク輸入ノ費用ヲ顧
ミスシテ復々洋銀ヲ輸入シ以テ其欠ヲ補ハサルヲ得サルコ
ルヘシ是ニ由テ之ヲ觀レハ洋銀ヲ退去セシメテ其跡ヲ市場ニ
絶タント欲ヤハ先ツ銀口ノ供給ヲ十分ニシテ内外ノ貿易ヲ行

フニ足ラシムルニ非サレハ能ハズ而シテ此供給ハ獨リ日本國內
ノ各市場ニ於テ貿易ヲ行フニ差闕ヘナカラシムルノミナラス
亦續々タル輸出ノ用ニモ足ラシメサル可カラス然レモ今如何
ナル策ヲ以テセハ能ク之レカ供給ヲ維持スルコトヲ得ヘキヤ余
輩ハ頗ル之レヲ了知スルニ苦シム如何トナレハ洋銀及ヒ銀口
ノ日本ニ於ケル通用價格ハ何レモ同一様ナルヲ以テ鑄造目的
ノ為メニ洋銀若シクハ銀塊ヲ日本ニ輸入スルハ誠ニ愚ノ至リ
ニシテ且ツ造幣局ハ若干ノ損失ヲ顧ミサルノ他ハ決シテ洋銀
ト同様ノ銀量ヲ含有セル貨幣ヲ鑄造スルコトヲ得サル可キカ故
ナリ
儲一十八百七十八年六月三十日マデニ日本造幣局ニ於テ鑄造
セシ銀口ノ全額ハ四百七十六万六千三百七十八圓ノ他ニ出テ
サルコトハ寔トニ明瞭ナリ蓋シ夫ノ貿易銀ハ今日流通上ニ用ユ

ヘカラス去レハ仮令ヒ大蔵ニ若干額ノ蓄積之アルモ是レ唯一
箇ノ銀塊タルニ過キズ是ヲ以テ觀ルルモ到底銀口六百萬圓ノ
蓄積アルヘキ実ナキヲ如何センヤ却テ此比六百萬圓ノ銀口證
券發行アルベキ廣告アリテ且ツ西外國銀行ハ日常ノ取引上之
ヲ銀口ト並價ニテ授受スベシトノ說アルヨリ推量スレハ果シ
テ本貨ノ不足ナルヲハ思半ハニ過グルナリ

將又此銀口證券ナルモノハ通貨上更ニ危險ヲ醸生スルノ一原
素ト云フ可シ然ル所以ノモノハ何ソヤ曰ク是等銀行ハ準備ト
トシテ其手許ニ保有スルヲ要スルノ定額丈ケハ則テ領受ス可
シト虫氏此定額ヲ越エルルハ止ムヲ得スシテ該證券ヲ謝絶
スルノ事アルモ亦未ダ謀ルヘカラザレハナリ惟フニ他日若シ
輸入品ノ賣捌キ巨大ニシテ是等銀行ニ蒐集スル銀口證券ノ額
殊ニ許多ナルヲアラハ忽チ證券ト銀口トノ間ニ若干ノ差ヲ生

スル必然ナルヲ以テ此時ニ至リ是等銀行ハ果シテ證券ノ領受
謝絶スルヲアルベシ

又先般布告ノ發行アリシニ拘ハラス今日ニ於テモ尚ホ外國人
ニ関セル取引勘定上ニハ二種ノ貨幣アリテ存セリ洋銀并ニ銀
口則是ナリ然リ而シテ是等銀行ニ於テ若シ此兩貨ノ為換相庭ヲ
同一ニ見做スルハ是等銀行ハ海外ニ於テ洋銀ノ流通價格銀口
ノ流通價格ヨリモ貴キニ際シ必ス若干ノ利益ヲ收得ベシ然ラ
ハ則チ是等銀行カ其營業上斯ル利益ヲ收得スルノ際ニ於テ損
失ヲ被ムル者ハ夫レ何人ナルソヤ

